

安城市の遺跡

平成16年度の発掘調査から



埋蔵文化財センターでは、平成16年度も市内8か所で発掘調査を行いました。対象の時期が弥生時代から戦国時代にかけて及んでおり、その結果、さまざまな事がわかってきました。

今回、その中で大きな成果を上げた遺跡を3つ紹介します。

問い合わせ▼埋蔵文化財センター
(安祥文化のさと内)
☎(77)4490)

本神遺跡(古井町)

碧海台地の先端に立地しています。昭和39年に畑の土取り工事中に完全な形の土器が多量に出土したため、緊急調査が実施され、幅3.0m、深さ2.5mと推定される、断面がV字形の堀が発見されました。調査区内で73・5mにわたって発掘され、工事区域の外側でも一部確認できたので、全長は少なくとも120m以上あったと推測されます。この堀は台地上の集落を取り囲んでいた可能性が高く、集落を守るための防御施設と考えられています。

16年度の調査は、県道の拡幅工事に伴って行われました。その結果、前回の調査に続く堀が東、北側において確認され、遺跡の範囲は今までの推定よりも北側に広がる事が判明しました。堀の中からは多量の土器が出土しました。そのほとんどが弥生時代の終わりごろのものです。



環濠の様子
(左側はすでに削られ、底は片足しか入らないくらい狭い)

上条遺跡群(上条町・山崎町)

上条町・山崎町にかけて広がるいくつかの遺跡からなり、弥生時代と古墳時代を中心とした大きな集落の跡と考えられています。上条町根崎にある台地の上では、過去の工事で多くの土器が出土しており、集落を囲んでいた堀(環濠といいますが)の跡と思われるものも見つかったといわれています。しかし、これまで正式に発掘調査を行ったことはなく、遺跡の様子はよくわかっていませんでした。



台地の上から転落して、埋まっていた土器や木製品

16年度は、県営ほ場整備事業に先立つ調査を行ったところ、新しい遺跡が見つかり、予想を上回る成果を得ました。まず、上条町根崎の台地の下では弥生時代終わりごろの土器や木製品が多量に出土しました。木製品には鍬などの農具や容器類、家の屋根材があり、台地の上の集落から転がり落ちたものが堆積したと思われます。農具が出土したことで、現在水田になっているこの地で弥生時代にも稲作が行われていた可能性が高まりました。この台地から東側は広大な湿地になっており、湿地が終わったところに新たに遺跡があるこ

姫遺跡(姫小川町)



調査区全景
(中央やや右下が井戸)

碧海台地の東の縁にあります。個人住宅建設に伴って調査したところ、新たに発見された戦国時代の遺跡です。東側には西三河でも有数の規模を誇る国指定史跡の姫小川古墳や平安時代から鎌倉時代にかけての集落の跡と思われる姫下遺跡、西側には城郭寺院の可能性を持つ誓願寺があり、古くから人の往来が盛んな地域であったと思われるます。今回の調査で、井戸跡と用途のわからない大型の掘り込みを中心に溝や小穴が多く見つかりました。出てきた土器の年代から、この遺跡は戦国時代のものであると思われます。住居跡は見つかりませんでしたが、井戸があることから、この一帯に戦国時代の集落があり、調査区はその集落の一角をなしていたと思われます。

とがわかりました。この遺跡は根崎の台地上の集落と同じ時代のもので、環濠の跡の可能性もある大きな溝や井戸と思われる跡が見つかりました。この溝や穴の中から多量の土器とともに鍬などの木製品も出土し、ある程度の規模を持つ集落があったと思われますが、集落の中心はさらに東の岡崎市側にあると思われ、実態を解明するには至りませんでした。さらに根崎台地の西側にある上条町万五郎の台地の上にも弥生時代から中世にかけての遺跡が新たに見つかっており、これらはすべて同じ遺跡群になると考えられます。今回の調査で、上条遺跡群がこれまで考えられていた範囲やその規模を大きく上回る遺跡群になる可能性が高いことがわかりました。

たくさん土器や木製品が捨てられていた穴



木製品 槽(容器)



遺跡の調査にご協力を！

埋蔵文化財センターでは、開発に伴い、やむを得ず破壊されてしまう遺跡について、事前に発掘調査を行っています。個人住宅の建て替えの際の調査については費用はかかりませんので、お気軽にご相談ください。また、発掘調査によって出土した遺物は、同センターにおいて保管・展示しています。現在「平成16年度発掘調査速報展」を開催していますので、ぜひご覧ください。(月曜日・祝日の翌日を除く毎日午前9時～午後5時)

『安城市埋蔵文化財発掘調査報告書 第15集』を販売しています



市内には縄文時代以降の遺跡が数多く存在しています。これらは、先人たちの生活の様子や文化を今に伝える貴重な市民共有の財産です。埋蔵文化財センターでは、遺跡の保存に努めるとともに記録保存のための発掘調査を行い、出土品の整理・保管・展示を行っています。

今回の第15集『鹿乗川流域遺跡群Ⅲ』は、古井町上橋下・下橋下地区で行われた調査の報告書です。特に弥生時代の土器が多量に出土し、この地域が弥生時代、西三河でも有数の拠点集落であったことがうかがえます。同報告書は、同センターにて4000円販売しています。